

たまねぎレポート【第404号】



令和3年6月26日

社 内 報

阪南青果株式会社

5月の天候は、気温は沖縄・奄美で記録的に高かった。降水量は西日本でかなり多く、日照時間は北・東日本の日本海側でかなり少なかった。西日本の梅雨入りは、平年より3週間も早く雨天曇天が多かった。今年の6月は西日本では降雨が比較的少なく、日照時間が多かった。関東・甲信地方の梅雨入りは、6月14日で平年より7日遅かった。気象庁の7～9月の3か月予報に依ると、平均気温は、北・東日本と沖縄・奄美で高い確率50%、西日本で平年並みまたは高い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の概況

建値市場の5月の野菜の販売量は、217,851トン前年比97%(前月比96%)、平均単価はkg ¥238前年比102%(前月比107%)。コロナウイルス禍の影響が続いているが、総じて販売量は前年比減、単価は前年比やや高目となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比89%、平均単価はkg ¥226前年比112%。東京市場の販売量は前年比96%平均単価はkg ¥251前年比102%。名古屋市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥232前年比101%。大阪本場の販売量は前年比101%、平均単価はkg ¥237で前年比102%。福岡市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥175前年比98%となっている。

建値市場の5月の玉葱の販売量は22,822トンで前年比78%、(前月比73%)、平均単価はkg ¥92前年比184%(前月比123%)。総じては、前年比、前月比ともに入荷減の単価高であった。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は2,360トン前年比54%、特に地場産地の北海物の販売量が616トン前年比44%と激減している。平均単価はkg ¥77前年比164%。東京市場の販売量は9,973トン前年比75%、平均単価はkg ¥101前年比217%。名古屋市場の販売量は5,568トン前年比80%、平均単価はkg ¥80前年比150%。大阪本場の販売量は2,943トン前年比79%、平均単価はkg

¥97前年比182%。福岡市場の販売量は1,978トン前年比95%、平均単価はkg¥95前年比170%となっている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の5月の主要野菜14品目の販売データの集計値は、販売量が92,063トン前年比3%減、平年(過去5年平均値)比8%減。平均単価は、kg¥147前年比100%、平年比3%高となっている。9か月振りに平年を上回った。販売量が前年比増となった品目は、ニンジンが前年比11%増、ハクサイが10%増、キャベツが5%増など7品目。販売量が前年比減となった品目は、タマネギが前年比24%減、サトイモが15%減、ナスが6%減など6品目。価格が前年比高となった品目は、タマネギがkg81で前年比80%高、サトイモがkg¥551で46%高、ジャガイモがkg¥243で23%高など7品目。前年比安となった品目は、ハクサイがkg¥48で前年比46%安、キャベツがkg¥62で44%安、ダイコンがkg¥70で20%安など7品目となっている。

東京都中央卸売市場の5月の野菜の入荷量は、122,6101トン前年比96%強(前月比96%弱)。平均単価はkg¥251前年比102%(前月比107%)で前年比、同月比ともに数量減で価格高となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、キャベツが前年比108%、生シイタケが106%、ニンジン・ホウレンソウ・ネギが105%など7品目。入荷が前年比減の品目は、タマネギが前年比75%、サトイモが86%、ピーマンが92%など8品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg¥101で前年比127%、サトイモがkg¥466で127%、バレイショがkg¥287で124%など7品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg¥47で前年比45%、キャベツがkg¥64で50%、ダイコンがkg¥82で77%など6品目。ネギはkg¥415、ニンジンはkg¥143でいずれも前年と同値となっている。

東京都中央卸売市場の5月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	122,610	96.3	95.7	251	102.1	106.8
た ま ね ぎ	9,973	74.7	73.0	101	216.5	127.9
キ ャ ベ ツ	18,127	108.1	91.0	64	49.5	91.4
ト マ ト	9,097	99.3	123.8	283	105.6	84.5
ば れ い し ょ	8,754	104.5	116.9	287	123.7	95.4
だ い こ ん	7,895	100.3	77.4	82	76.7	118.8
に ん じ ん	7,697	105.1	91.1	143	100.0	87.7
き ゅ う り	7,633	92.8	102.9	257	104.4	96.6
は く さ い	6,583	97.0	101.5	47	44.8	114.6
レ タ ス	6,112	91.5	87.0	166	106.3	124.8
ね ぎ	3,763	104.6	115.7	415	100.0	88.9
か ぼ ち ゃ	2,032	92.9	85.6	238	119.6	136.8
な が い も	993	99.9	98.6	298	92.6	102.4
れ ん こ ん	390	218.0	75.4	575	61.9	99.0
に ん に く	259	74.3	110.7	1,225	145.1	82.9

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の5月の玉葱の入荷量は9,973トン前年比75%(前月比73%)。西日本の梅雨入りが早く、天候不順で府県産の収穫・出荷が後ズ

レした影響で、入荷が減少した。北海産はCA及び冷蔵貯蔵物が増加したが、全体的には前年比大幅減となった。特に主力産地の佐賀物の入荷が予想外に激減したことで、品薄高となった。佐賀物の入荷は3,940トン前年比52%、占有率40%で前年比17ポイントダウン。北海物は3,347トン前年比119%、占有率は34%前年比12ポイントアップ。兵庫物は1,136トン前年比96%、占有率は11%前年比2ポイントアップ。千葉物は400トン前年比84%、占有率4%で前年と変わらず。総平均単価はkg¥101前年比217%(前月比128%)。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥105前年比300%。北海物はkg¥94前年比159%。兵庫物はkg¥114前年比157%。千葉物はkg¥89前年比213%となっている。北海物の貯蔵品の事前契約は、契約時点では市況安で採算割れを覚悟していたが、5月が品薄高市況となったことで助けられた。

6月に入り、入荷が前年並みに復帰したことで、品薄高が順次解消され、相場は弱含みに転じた。佐賀物主力の販売に変わりはないが、兵庫物の入荷が増えプライスリーダーとなった。栃木物や愛知物も少量入荷したが、総じて荷動きは鈍化傾向で、弱保合の市況展開となった。愛知物は過大球が多く売り辛かった。此処に来て、府県産地の青切り(即売)出荷は終盤を迎え、相場は強気配に転じている。主力の佐賀物に品質劣化が散見されるほか、愛知、栃木も減少傾向で、7月は、佐賀の除湿乾燥物と兵庫の囲い物が主力となる。

6月1日～19日の入荷量は6,397トン前年比93%、平均単価はkg¥106前年比113%。産地別では、佐賀物の入荷は2,848トンで前年比93%、平均単価はkg¥106前年比117%。兵庫物は1,189トン前年比101%、平均単価はkg¥114前年比96%。北海物は620トン前年比212%、平均単価はkg¥109前年比106%。栃木物は391トン前年比81%、平均単価はkg¥96前年比125%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の5月の玉葱販売量は5,568トン前年比96%(前月比72%)で前年比、前月比ともに減となっている。地場の愛知物が最盛期で主力となり、販売量は3,205トン前年比102%、占有率58%前年比4ポイントアップ。北海物は1,756トン前年比81%、占有率32%前年比6ポイントダウン。兵庫物は428トン前年比112%、占有率8%前年比1ポイントアップ。熊本物が95トン前年比204%、占有率2%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg80前年比151%(前月比111%)で、堅調に推移した。産地別の平均単価は、愛知物はkg¥78前年比181%。北海物はkg¥74前年比118%。兵庫物はkg¥109前年比163%。熊本物(サラダ玉葱)はkg¥134前年比107%となっている。

6月に入り、地場の愛知物が終盤期となり、産地では出荷先を集約し、中京重点の出荷となったが、荷動きは鈍く、在庫を抱えながらの販売が続いた。月後半から主力は日を追って兵庫物に移行した。昨今の愛知物は終盤となり、品質に難がありクレームが増加し、成り行き販売が増えている。玉葱の引き合いはそこそこで、価格が高くても良い品物を求める傾向となり、兵庫物が対象となっているが、相場は産地主導となる。

大阪本場

大阪中央卸売市場本場での5月の玉葱の販売量は、2,943トン前年比79%(前月比67%)で前年比、前月比でともに大幅減となっている。早い梅雨入りの影響もあり、主力産地の兵庫産の収穫・出荷が後ズレしたこと等で入荷減につながった。産地別の販売量は、兵庫物は1,648トン前年比75%、占有率56%前年比4%ダウン。佐賀物は704トン前年比132%、占有率24%前年比10ポイントアップ。北海物は380トン前年比53%、占有率13%前年比6%

ダウン。大阪産は112トンで前年比71%、占有率は4%で前年と同じ。総平均単価はkg¥97前年比132%(前月比131%)。数量減の単価高となっている。産地別の月間平均単価は、兵庫物はkg¥102前年比184%。佐賀物はkg¥96前年比224%。北海物はkg¥88前年比160%。大阪物はkg¥91前年比201%となっている。

6月に入ってからの入荷は順調で、5月の品薄高相場は徐々に解消され、中旬には市況は弱気配に転じた。高値を反映して上旬の入荷は前年比125%。兵庫物20kgLの高値は¥3,000に上昇、中旬には¥2,000に続落。中旬の入荷量は前年比90%に減少し、入荷量・価格共に大きく変動した。亦、いずれの産地も、豊作で球肥大が進み大粒でL高の2L安の構図となり、価格差が大きくなった。昨今の市場は、入荷が減少傾向で、引き合いが強まり、7月は品薄高になりそうだ。

6月1日～19日の入荷量は2,082トン前年比103%、平均価格はkg¥106前年比110%。産地別では、主力の兵庫物の入荷は1,281トン前年比106%、平均価格はkg¥113前年比101%。佐賀物は508トン前年比194%、平均価格はkg¥97前年比123%。愛媛物は96トンで前年比75%、平均価格はkg¥74前年比104%。地場の大阪物は85トン前年比87%、平均単価はkg¥92前年比115%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の5月の玉葱販売量は、1,978トン前年比98%(前月比86%)で、前年比、前月比ともに減となっている。佐賀物が主力となり、北海物は事前契約の貯蔵品となった。佐賀物の販売量は1,247トン前年比95%、占有率63%で前年比1ポイントダウン。北海物は455トン前年比98%、占有率は23%で前年と同じ。長崎物は97トン前年比139%、占有率は5%前年比

2ポイントアップ。地場産の福岡物は84トン前年比99%、占有率4%で前年並み。月間総平均単価はkg¥95前年比170%(前月比127%)で前年比、前月比とも大幅高で堅調に推移した。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥95前年比194%。北海物もkg¥95前年比134%。長崎物はkg¥90前年比164%。福岡物はkg¥98前年比144%となっている。

6月に入り、主力の佐賀物の入荷は順調で、荷動きは今ひとつで相場は弱気配に転じた。5月末の高値相場を受けて、産地の値上げ要請が強まり、市場サイドと産地サイドに温度差が生じた。昨今では、いずれの産地も青切り(即売)出荷の終盤期となり、品質面の劣化が目立ちクレームが発生している。荷動きも鈍く、相場は弱気配である。此の先、主力の佐賀物は、短期貯蔵の除湿乾燥物に切り替わり、入荷の減少が予想され、品薄高に転じる予想である。

6月1日～19日の玉葱の販売量は1,410トン前年比109%、平均単価はkg¥98前年比111%。数量増の価格高となっている。

6月24日(木)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷35トン 強い(せり売りなく相対売り)

佐賀 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L ¥2,700～2,300、M ¥2,600～2,200。

栃木 20kgNT2L ¥2,000～1,700、L ¥2,400～2,100、M ¥2,400～2,100。

【太田市場】 入荷244トン 保合

佐賀 20kgDB2L ¥1,800～1,600、L ¥2,200～2,000、M ¥2,200～2,100。

兵庫 20kgDB2L ¥1,800～1,700、L ¥2,300～2,200、M ¥2,300～2,200。

栃木 20kgNT2L ¥1,500～ L ¥1,800～ M ¥2,000～

愛知 10kgDB2L ¥900～800、L ¥1,100～1,000、M ¥1,100～1,000。

【名古屋北部】 入荷101トン 保合

愛知 20kgDB2L ¥1,400～1,200、L ¥1,800～1,500、M ¥1,800～1,600。

兵庫 20kgDB2L ¥1,800～1,700、L ¥2,300～2,200、M ¥2,300～2,200。

【大阪本場】 入荷120トン 保合

兵庫 20kgDB2L ¥1,800～1,600、L ¥2,200～2,000、M ¥2,500～2,300。

兵庫 10kgDB2L ¥1,000～ 800、L ¥1,200～1,000、M ¥1,300～1,000。

佐賀 20kgDB2L ¥1,600～ L ¥2,200～2,000、M ¥2,200～2,000。

佐賀 10kgDB2L ¥800 ～ L ¥1,000～ 900、M ¥1,000～ 900。

【福岡市場】 入荷112トン 保合

佐賀 20kgDB2L ¥1,600～ L ¥2,200～2,000、M ¥2,200～2,000。

佐賀 10kgDB2L ¥800 ～ L ¥1,000～ 900、M ¥1,000～ 900。

供給(産地)の動き

今年、西日本地方の梅雨入りは、平年より3週間も早く、関東・甲信地方は平年より7日遅かった。大型産地の佐賀、兵庫の普通早生、中晩生の生育・収穫が早い梅雨入りで後ズレしたが、梅雨の中休みの晴れ間に収穫を急いだことで、日本海側の産地を除き、遅ればせながら、今週には殆どが終了した。主力産地の5月出荷の普通早生の作付けは、総じて減反であったし、更に収穫遅れが影響し、5月出荷は減少した。反面、作柄は予想以上の豊作型で球肥大が進み大粒化した。病害の発生も前年に比べると少なく、6月出荷は順調で前年を上回ると予測している。6月末の府県物の産地在庫は、前年並みかやや多いと予想されている。生育途上にある北海産は、現時点の調査では、作付は前年比微減となるものの、生育は一部地域でやや徒長傾向や、水ヤケ傾向の圃場が見受けられるものの、概ね順調で平年作は確保出来ると見られている。昨

今、圃場が乾燥して雨待ちの地域もある。

府県産地

佐賀、5月出荷は前年を下回ったが、6月出荷は5月末から6月前半の市況高を反映して、前年を上回る出荷となる見込みである。5月の出荷は高値市況を受けて、生産者手取りは、反当り40万円前後となり、稀に見る好収入を得た。今年、短期貯蔵(囲い・コログシ)で出荷の先延ばしをするよりも青切り(即売)出荷が得策と考える生産者も多く、6月出荷は増加傾向となっている。従って6月末の生産者在庫は昨年と比べると少ない。ただ、人手不足の影響などで、根付き・葉付での除湿乾燥処理中の在庫は、JA、商系とも前年比20～30%増になると予想されている。

兵庫、遅れていた収穫も今週で殆ど終了。今年も大豊作型で反収は多い。一時期、収穫が集中して収穫用のポリコンテナが不足し、5月末収穫の中には病害が散見され、予想外の品質低下の圃場も見受けられた。6月市況は値下りしたことで、出荷は先送りの傾向にある。6月末の産地在庫は、作付減はあるものの、ロス率低下で前年並みと予想されている。6月21日の関係機関の定点収量予想では、平均反収(10a)は、ターザン種で8,649kg(10か年平均比111.8%)。もみじ輝き種で7,264kg(同平均比128.5%)。もみじ3号種で7,409kg(同平均比106.0%)となっている。病害発病率は、灰色腐敗病は、いずれの品種も発生は確認されず。細菌性病害(軟腐・腐敗病)はターザンで1.3%(同平均0.7%)。もみじ輝きで2.0%(同5.4%)。もみじ3号で9.0%(同3.9%)でやゝ多い。暖冬で軟弱徒長した葉が4月の風雨で傷み、発生増となった。その後、首廻りや球部分まで病状が進行した株は、鱗片腐敗や肌腐りとなった。

北海道産地

今年、北海道産の作付面積は、12,937ha(前年比55ha減)作型別では、極早生935ha、早生4,758ha、中生6,659ha、晩生266ha、在来種19ha。となっている。極早生の主力を占めるSN系は2~3年来、品質劣化が早く市場から敬遠され、前年比82%に減反され、T-831が前年比124%に増反されている。生育は地域別に多少のバラツキはあるものの、現時点では概ね順調である。6月前半の平均気温は前年比3℃~2℃高く、生育はやや前進化している。道の6月15日の生育調査では、石狩地方は草丈45.9cmで前年比9.9cm長く、葉数6.6枚前年比1枚増で、生育は4日早く順調。空知地方は草丈50cmで前年比4.8cm長く、葉数6.5枚で前年並み、葉鞘径13.1mmで前年比1.7mm太く生育は2日早い。上川地方は、草丈47.5cm前年比112%でやや長く、葉数6.4枚前年比103%で前年並み、葉鞘径11.7mm前年比103%で前年並み、生育は1日早い。オホーツク地方は、草丈46cm前年比109%で前年並み、葉数5.9枚前年比102%で前年並み、葉鞘径11.2mm前年比101%で前年並み。生育は1日早い。と報告されている。

輸入動向

5月の輸入は速報値で15,758トン前年比108%となっている。4~5月の市況好転で、ニュージー物と中国物の輸入が増加した。主力の中国物は14,535トン前年比109%。ニュージーランドが1,034トン前年比109%。オーストラリヤが186トン前年比70%となっている。

中国、産地は甘粛・雲南省の内陸地域から江蘇・山東省の沿海地域に移行している。作付は、昨年の安値で減反となっているほか、天候不順で日照が不足、球肥大が遅れ、小粒傾向で病害の発生もあり、減反、減収になっている模様。今年の春は国内マーケットが堅調で輸出価格も値上がりしていた。が、昨今の

現地は値下り傾向にあるものの、平年に比べるとかなり高い、現在、日本向け価格は、剥き玉20kg・C&F・\$ 10.00～9.00となっている。

ニュージーランド、5月の日本市場の高値を反映して、日本からのオフアが増えているが、コンテナ不足や港湾荷役の停滞など、デリバリーに支障が生じ、数量的には多くない。現在の着荷品は、例年と異なり、発芽、腐敗が多く、成約は中断している。現在、日本向け価格は、70～80mmサイズ・C&F・¥1,000前後で前月と変わらない。

7月の市況見通し

今年の5月は、例年になく梅雨入りが早く、府県産の5月出荷は後ズレして、いずれの産地も計画量を下回った。6月の出荷は順調で、前年を上回る入荷が続いていたが、後半の市況が下押し傾向となったことで、佐賀、兵庫の大産地では市況眺めの出荷に変わり、後ズレ傾向にある。府県の何れの産地も在庫は中晩生になり、貯蔵可能品種となっているため、出荷を急ぐ気配はない。7月は、盛夏となり平年は消費の低迷期となり、冷蔵産地の兵庫、香川、愛媛では入庫が活発化する。近年、北海産の早生物の出荷が前進化し、冷蔵産地は北海産の生育状態を眺め、冷蔵貯蔵か即売出荷かの判断を迫られることになる。

7月は、短期貯蔵物の出荷が主力を占め、佐賀は除湿乾燥物、兵庫は温風乾燥の囲い物(通称コロガシ)となる。いずれも青切りの即売出荷に比べ、費用が掛かることで、市況眺めの出荷となり、市場の卸サイドも費用に見合う高値販売を考えている。昨年は病害によるロス率の上昇で、品薄高となったが、今年には昨年のような品不足による高騰はないと思われるが、需給はタイト傾向に向かい、6月に比べ20%前後の高値相場になると予想している。(了) 笹野敏和記